

「若手研究者支援」国際学会発表	
Gender differences in sexual orientation and autistic tendencies among psychiatric clinic patients with gender dysphoria	
氏名 此下 千晶	所属 人間発達科学専攻 博士後期課程 2年
期間	2024年 9月 25日～ 2024年 9月 30日
学会・分科会名	WPATH (World Professional Association for Transgender Health) 28th Scientific Symposium
場所	Hotel Epic Sana Lisboa, Lisbon, Portugal
発表者名、発表形式	Chiaki Konoshita, ポスター発表

## 内容報告

### 1. 発表の概要

WPATH (World Professional Association for Transgender Health) 28th Scientific Symposiumにて、「トランスジェンダー（生まれた時に割り当てられた性別と自認する性が異なる人々）の性自認による臨床的特徴の違い」に関するポスター発表を行った。WPATHはトランスジェンダーの健康に関する研究、教育等のための国際的な専門職組織であるため、そこで幅広い観点からの意見や知見を取り入れることが本発表の目的であった。

今回発表した研究は、(1)性別違和感をもって精神科クリニックを受診した患者の性自認による性的指向分布の違いを明らかにすること、(2)性自認と性的指向の組み合わせによる臨床的特徴（性別違和感の強さ、QOLの程度、自閉傾向）の違いを明らかにすることを目的としており、2009年に実施した質問紙調査のデータを解析した。本研究によって得られた知見は、性別違和を有する患者の臨床像の理解に繋がり、臨床実践や将来の研究に重要な影響を与えられらる。

### 2. 学会参加によって得られた成果

本発表を通して、多くの研究者と豊かなコミュニケーションをとり、貴重な意見をいただくことができた。今回の発表内容に関連した共同研究の話も生まれ、現在実現に向けて準備を進めている。

本学会はアプリケーションを用いており、コミュニティ機能やチャット機能を通して参加者同士の交流が盛んに行われていた。私もPhDの学生やアジア研究者のコミュニティに参加することができ、今後の活動への良い刺激となった。国際学会への参加は、世界中の研究者と繋がることのできる大変貴重な機会であることを実感した。

### 3. 今後の展望

今回発表した研究成果は博士論文における1つの章とし、また国際的な学会誌「Psychology of Sexual Orientation and Gender Diversity」に投稿する予定である。

近年LGBTQ+に対する社会的関心は高まっており、また医学的知見の更新とともに性別違和感に対する診断は変遷している。このような変化の中で、性別違和感をもつ人々の臨床像は変化している可能性が考えられるため、本研究は2009年のデータを解析したものであるが、今後は臨床的特徴の年代比較やトランスジェンダー内での多様性に留意した研究を行う予定である。

このした ちあき／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻

- ・ 英文タイトル Gender differences in sexual orientation and autistic tendencies among psychiatric clinic patients with gender dysphoria
- ・ 英文氏名 Chiaki Konoshita
- ・ 英文発表者名 Chiaki Konoshita, Katsuki Harima, Yuria Demizu, Keiichiro Ishimaru

### 指導教員のコメント

本研究発表は、トランスジェンダーの臨床的特徴に関する重要な知見を提供しており、高く評価できます。WPATH という国際的な場での発表は、貴重な経験となったことでしょう。研究内容は性別違和感を持つ患者の理解に貢献し、臨床実践に影響を与える可能性があります。学会参加を通じて得られた人脈や共同研究の機会は、今後の研究活動に大きな刺激となるでしょう。国際誌への投稿計画も評価に値します。今後の展望として、最新のデータを用いた年代比較やトランスジェンダー内の多様性に注目した研究は非常に興味深いテーマです。社会的変化や医学的知見の更新を踏まえた継続的な研究を期待しています。

(基幹研究院人間科学系 教授 石丸径一郎)